

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス イロエンビツ			
○保護者評価実施期間	令和7年10月11日		～	令和7年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	令和7年10月11日		～	令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者のニーズをできる限り個別支援計画に盛り込み、個々に合わせた個別の支援の充実を目指している。	個別のSSTをほとんどの児童が取り組んでいる。体調やその日の状態を考慮しながら「できた」を感じられるように進めている。	
2	天候に合わせて屋外での活動を取り入れている。自然に触れること・体を動かすことで心身の健康につながることを目的としている。	暖かい気候のときは平日でも集団活動を変更し、公園に行つて体を動かすようにしている。子どもたちの発散の場であり、良い睡眠が得られるようにと考えている。	
3	1階スペースが余暇活動を過ごす場所、2階スペースが勉強や個別SSTに取り組む場所と空間で切る替えができる構造となっている。	壁ではなく、空間で分けることにより、子ども達の気持ちが切替できるようになっている。また、2階にはおもちゃを置いていなく、勉強や個別SSTに集中できるように1人1テーブル使って集中できるようにしている。	勉強スペースを個別に区切ることができれば周りを気にせずに取り組みが捗ると考えられる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団での活動で未就学児と小学生のレベルが違い、活動の理解や取り組みに足並みが揃わないことがある。	全員で取り組むときに同じ役割を与えてしまっている。	小集団を作り活動を分けて取り組むこと・全員で取り組む際には1人ひとりに役割を振り分け、参加できるように支援をする。
2	肢体不自由の児童が来た際に、玄関の段差や階段があるため、バリアフリーにはなっていない。	スロープをつけるなどの環境を整える必要がある。	問い合わせが来たときに、スムーズに対応できるように備品を準備する。
3			